

次期教育等の振興に関する施策の大綱の方向性（案）

(参考) 現行教育大綱の基本理念 (目指すべき人間像) の実現に向けた施策の体系図



▶ ① 「基本理念」 (目指す人間像) 案について

現行大綱の記載

基本理念 ~目指すべき人間像~

「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち」



「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材」



(新設)



(新設)



次期教育大綱の記載案

基本理念 ~目指す人間像~

「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人」

「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人」

「多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人」

※上記の3つの人間像を実現することで、一人ひとりの今、そして今後が、身体的、精神的、社会的に良好な状態である、いわゆる「ウェルビーイング」の実現につながると考える。

【P】

考え方

社会的包摂の重要性の下、「多様性を認め合うこと」や、そのうえで様々な取組促進や課題解決にあたって「他者と協働すること」が必要となっており、その趣旨を「目指す人間像」として明記したものを新設。

経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいをつめる考え方が重視されているなかで、教育界等において近年その考え方の重要性が提唱され、OECD (経済協力開発機構)の「Learning Compass2030(学びの羅針盤2030)」においても「私たちが望む未来(Future We Want)」として示された、「個人と社会のウェルビーイング」という考え方と、本県の「目指す人間像」との関係性を明確にする趣旨で、注釈を記載する方向で検討。

知 (1) 知の分野の目標

子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む

<測定指標>

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す中学校の学力は全国平均以上に引き上げる
- 小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする

- ▶R4年度全国学力・学習状況調査結果(対象:小6、中3)
小学校:国 +0.7 算 +2.5 理-0.3
中学校:国 -1.9 数 -5.0 理-2.8

◇小学校(第6学年)

数値は全国平均正答率との差

評価の観点		R4年度
国語	知識・技能	72.9 (+2.4)
	思考・判断・表現	61.4 (-0.6)
算数	知識・技能	70.4 (+2.2)
	思考・判断・表現	59.6 (+2.9)
理科	知識・技能	62.0 (-0.5)
	思考・判断・表現	63.5 (-0.2)

◇中学校(第3学年)

評価の観点		R4年度
国語	知識・技能	67.4 (-1.6)
	思考・判断・表現	60.7 (-1.6)
数学	知識・技能	52.9 (-7.0)
	思考・判断・表現	34.8 (-1.4)
理科	知識・技能	42.9 (-3.2)
	思考・判断・表現	48.3 (-2.7)

() は全国平均正答率との差

②高等学校

- 高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする

- ▶R4年度学力定着把握検査Iの結果(2年生1月):21.7%
(県立高等学校のうち、進学に重点を置く学校を除いた29校の平均)

- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

- ▶R3年度卒業生に占める進路未定者の割合:5.0%

徳 (2) 徳の分野の目標

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む

<測定指標>

- 児童生徒質問紙調査における道徳性等(自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など)に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる

- ▶R4年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果

「自分には、よいところがあると思う」:
小学校 78.8% (-0.5) 中学校 80.9% (+2.4)

「将来の夢や目標を持っている」:
小学校 78.1% (-1.7) 中学校 71.3% (+4.0)

「人が困っているときは、進んで助けている」:
小学校 88.7% (-0.2) 中学校 88.4% (±0)

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」:
小学校 52.6% (+1.3) 中学校 45.1% (+4.4)

※各質問に対し肯定的な回答をした児童生徒の割合
() は全国平均との差

- 生徒指導上の諸課題(不登校、中途退学)の状況を全国平均まで改善させる

- ▶R3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

- ・1,000人あたりの不登校児童生徒数(国公私立):
小中31.2人(全国25.7人)、高校18.0人(全国16.9人)
- ・中途退学率(国公私立):1.5%(全国1.2%)

<参考>

- ・不登校児童生徒のうち、学校内・外で相談・指導等を受けている割合(国公私立):
小中92.6%(全国63.7%)、高校65.0%(全国59.4%)
- ・1,000人あたりのいじめ認知件数(国公私立):
小中高特支55.1件(全国47.7件)
- ・1,000人あたりの暴力行為発生件数(国公私立):
小中高10.7件(全国6.0件)

体 (3) 体の分野の目標

生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を身につけさせる

<測定指標>

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る

- ▶R4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

(対象:小5、中2)

(数値はT得点(全国平均=50))

小学校:男子50.5 女子50.6

中学校:男子50.2 女子50.7

- 総合評価※でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる

- ▶R4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

(対象:小5、中2)

小学校:男子34.1% (+2.6)

小学校:女子28.4% (+4.0)

中学校:男子32.3% (+3.7)

中学校:女子16.6% (+2.4)

() は、県の過去4年間(H28~R元年度)の平均値との差

※総合評価:体力テスト合計得点のよい方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価

知・徳・体の各目標の達成に向けた取組の進捗や施策の成果・課題を把握するため、それぞれの目標に測定指標を設定し、P D C A サイクルに基づく進捗管理を徹底

② 目指す人間像を実現するための基本目標案と、それを測るための測定指標案について

現行大綱の記載

「知」の分野

◆ 知の目標

「子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。」

次期教育大綱の記載案

「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

◆ 基本目標

「子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。」

義務教育段階では、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成を図る。

また、高等学校段階では、社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を身に付ける。」

考え方

「知」「徳」「体」と従前示していたものを、より内容を明確にし、かつ、「知」「徳」「体」という分類では必ずしも含まれない事項を含ませるものとすることから、新たな記載に改正（以下同じ）。

義務教育と高等学校段階の教育においては、それぞれにおいて目指す「学びの姿」に異なるものがあり、その表れとして異なる測定指標を設定しているところ。その関係性を明確にするために、それぞれの段階での目指す「学び」観の違いを明示。

現行大綱の記載

測定指標

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、

- ・小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す。中学校の学力は全国平均以上に引き上げる。
- ・小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする。

次期教育大綱の記載案

測定指標

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、
 - ・小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。中学校の学力は全国平均に引き上げる。

小6年（国）	R3	R4	R5
--------	----	----	----

高知県	66.9	66.3	69.3
-----	------	------	------

全国	64.7	65.6	67.2
----	------	------	------

小6年（算）	R3	R4	R5
--------	----	----	----

高知県	70.8	65.7	64.7
-----	------	------	------

全国	70.2	63.2	62.5
----	------	------	------

小6年（理）	R4
--------	----

高知県	63.0
-----	------

全国	63.3
----	------

中3年（国）	R3	R4	R5
--------	----	----	----

高知県	63.5	67.1	68.5
-----	------	------	------

全国	64.6	69.0	69.8
----	------	------	------

中3年（数）	R3	R4	R5
--------	----	----	----

高知県	54.6	46.4	48.6
-----	------	------	------

全国	57.2	51.4	51.0
----	------	------	------

中3年（理）	R4
--------	----

高知県	46.5
-----	------

全国	49.3
----	------

中3年（英）	R5
--------	----

高知県	39.2
-----	------

全国	45.6
----	------

平均正答率（％）

考え方

小学校については、実績が測定指標との関係で達成したか否かを明確にするため、「全国上位」という表現を「全国平均を継続的に1ポイント以上上回る」と設定。「1ポイント以上」の考え方については、令和元年度以降の高知県と全国との正答率の差をみると、国語、算数ともに全国平均を上回っているが継続して1ポイント以上上回っていない。また、理科は全国平均に達していない。この状況を踏まえ、「1ポイント以上」と設定。

測定指標

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、

(新設)

次期教育大綱の記載案

測定指標

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、
 <小学校>
 ・D層の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。
 <中学校>
 ・D層の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

小6年（国）	R3	R4	R5
高知県	18.4	19.5	21.8
全国	20.9	21.0	24.0

小6年（算）	R3	R4	R5
高知県	21.0	20.2	17.0
全国	21.6	23.7	19.5

小6年（理）	R4
高知県	22.5
全国	21.5

中3年（国）	R3	R4	R5
高知県	21.3	24.0	20.5
全国	18.6	21.3	19.4

中3年（数）	R3	R4	R5
高知県	21.3	22.8	19.1
全国	18.6	19.0	17.6

中3年（理）	R4	中3年（英）	R5
高知県	23.0	高知県	22.8
全国	19.9	全国	17.0

D層の児童生徒の割合（%）＊

＊文部科学省は、児童・生徒を正答数の大きい順に整理し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としている。それに高知県の児童生徒の状況を当てはめて、D層の割合を示している。

前頁にて「平均」を測定指標として設定するのに加え、学力定着に課題がある層の減少を図ることで二極化の解消を目指す目的から、新たにそれを測る測定指標を追加。

現行大綱の記載

測定指標

②高等学校

- 高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする（県立高等学校のうち進学に重点を置く学校を除いた29校の平均）。

- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする。

(新設)

次期教育大綱の記載案

測定指標

②高等学校

- 学力定着把握検査におけるC層*以上の生徒の割合を65%以上とする（全県立高等学校の平均）。

高等学校	R2	R3	R4
2年（1月）	63.5	62.1	61.4

(%)

* 学力定着把握検査の評価尺度では、学習到達ゾーンとして上位からS層、A層、B層、C層、D層と区分されている。その中でC層は基本的な問題に取り組むのに必要な知識が身につけているとされる。

- 高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。

高等学校	R2	R3	R4
3年（3月）	95.4	95.0	95.0

高知県高等学校就職対策連絡協議会調査結果 (%)

- 高校3年で「自分の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

高等学校	R2	R3	R4
3年（9～12月）	85.9	86.7	85.0

高知県オリジナルアンケート結果 (%)

考え方

現行の測定指標の調査が一部高校に対象が限定されたものであることから、県の高等学校全体の状況を表すために、全県立高校を対象とした測定指標に設定。
また、高等学校段階の目指す姿である測定指標として、中学校段階の基礎学力定着に課題があるD3層について設定する現行の形をやめ、「C層以上」を測定指標として設定。
（「D3層の減少」については、体系図⑤以下の指標・KPIとして別に設定予定）

進路の決定率は、高等学校に通うなかで、生徒が就職・進学等の自らが社会で進む進路を考え、それに向けた準備等をしっかりと行うことができるよう、学校が環境等を提供できたことの表れであるため、引き続き測定指標として設定。
（ただし、「未定」率ではなく、肯定的な「決定」率で設定）

学校等の取組の結果、今後の社会において様々な取組に臨む「意欲」を身に付けることができたかを測るため、また、学力検査に表れない資格の勉強や専門分野の勉強等に意欲を有すことができているかについて把握するため、測定指標を新設。

「体」の分野

- ◆体の目標
「生涯にわたってたくましく
生き抜いていくための基礎
となる、体力や健康的な生活
習慣を身につけさせる。」

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣
等調査において、
- ・小・中学校の体力合計点は、
継続的に全国平均を上回る。

「健やかな体の育成と、
基本的な生活習慣の定着」

- ◆基本目標
「生涯にわたってたくましく
生き抜いていくための基礎
となる、体力や健康的な生活
習慣を身につけさせる。」

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣
等調査において、
- ・小・中学校の体力合計点は、
継続的に全国平均を上回る。
平成30年度*の全国平均値まで
改善させる。

小5年男子	H30	R3	R4
高知県	53.90	52.75	52.78
全国	54.21	52.52	52.28
小5年女子	H30	R3	R4
高知県	55.58	55.31	54.83
全国	55.90	54.64	54.31
中2年男子	H30	R3	R4
高知県	42.94	41.90	41.26
全国	42.32	41.18	41.04
中2年女子	H30	R3	R4
高知県	50.39	49.06	48.23
全国	50.61	48.56	47.42

体力合計点（点）

*平成30年度が全国・県ともに体力合計点のピークであったため、コロナ禍で落ち込んだ体力をそこまで戻すことを目指すという趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」を設定

小・中学校の体力合計点は、令和3・4年度と全国平均を高知県が上回っているため、その状態を維持する。また、平成30年度が全国・県ともに体力合計点のピークであったため、コロナ禍で落ち込んだ体力をそこまで戻すことを目指すという趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」を設定。

現行大綱の記載

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、
- ・総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる。

(新設)

次期教育大綱の記載案

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、
- ・総合評価でDE群*の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。

小5年男子	H30	R3	R4
高知県	30.1	35.8	34.1
全国	28.8	36.2	37.0

小5年女子	H30	R3	R4
高知県	23.8	24.9	28.4
全国	22.5	27.6	28.9

中2年男子	H30	R3	R4
高知県	27.6	29.8	32.3
全国	27.8	32.7	33.5

中2年女子	H30	R3	R4
高知県	11.7	15.4	16.6
全国	10.8	15.4	18.1

DE群の児童生徒の割合 (%)

*体力テスト合計得点の総合評価において、よい方からABCDEの5段階に分類された4・5段階に属する群

- ・「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。

中2年男子	R3	R4
高知県	57.6	53.9
全国	56.4	56.5

中2年女子	R3	R4
高知県	43.5	42.3
全国	43.8	41.7

「思う」と回答した生徒の割合 (%)

考え方

「DE群の児童生徒の割合」の測定指標についても、前頁の同趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」に修正。

自主的に運動等を将来的に行おうとする意欲は、男女ともに前年度の県平均を下回った。特に、男子は下げ幅が大きく、全国平均を大きく下回っている。
子どもたちが生涯にわたって心身の健康を保持増進するためには、卒業後の生涯にわたって運動習慣の形成が必要であり、体育・保健体育の授業改善の目標として国が学習指導要領においても示している。
そのような趣旨から「意欲」について測定指標として新設。

測定指標

(新設)

測定指標

●規則正しい睡眠や食事などの基本的生活習慣が身についている。

・全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙において、

①「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。

小6年	R3	R4	R5	中3年	R3	R4	R5
高知県	86.1	84.9	83.9	高知県	77.5	79.3	78.9
全国	85.8	84.9	83.7	全国	81.8	79.9	78.6

(%)

②「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。

小6年	R3	R4	R5	中3年	R3	R4	R5
高知県	81.0	82.1	80.5	高知県	80.5	83.4	81.4
全国	81.2	81.5	81.0	全国	79.8	79.9	78.0

肯定群の割合 (%)

③「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。

小6年	R3	R4	R5	中3年	R3	R4	R5
高知県	89.6	90.3	88.8	高知県	92.9	93.7	92.1
全国	90.4	90.4	90.5	全国	92.7	92.2	91.3

肯定群の割合 (%)

生涯にわたって生活をするうえでの基盤となる基本生活習慣の確立に係る測定指標を新たに設定。

「徳」の分野

- ◆徳の目標
「社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。」

「豊かな心の育成と、 多様な思い・考えを尊重する 機運の醸成」

- ◆基本目標
「社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、自尊感情、夢や志、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。
また、「不登校」については、決して問題行動ではないことを前提として、「未然防止・早期支援」と「不登校の児童生徒が学びたいと思った時に学べる環境の整備」との両輪による支援を行う。」

「不登校」について、「いじめ」等の問題行動とは明確に別に位置付けられるものであることを明示し、その取組の方向性について新たに記載。

測定指標

- 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査における道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
- ・ 「自分には、よいところがあると思う」
- ・ 「将来の夢や目標を持っている」
- ・ 「人が困っているときは、進んで助けている」
- ・ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」

測定指標

- 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査における道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。（小・中学校）
- ① 「自分には、よいところがあると思う」
- ② 「将来の夢や目標を持っている」
- ③ 「人が困っているときは、進んで助けている」
- ④ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

小6年 (R5)	①	②	③	④
高知県	82.8	80.2	90.5	77.7
全国	83.5	81.5	91.6	76.8

中3年 (R5)	①	②	③	④
高知県	81.1	68.8	86.3	70.8
全国	80.0	66.3	88.1	63.9

肯定的割合 (%)

④は、R5年度からの質問項目に修正

現行大綱の記載

測定指標

(新設)

次期教育大綱の記載案

測定指標

- 県調査における道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
(高等学校)

- ① 「自分という存在を大切に思える」
- ② 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」
- ③ 「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」

R4年度	①	②	③
高3年 (8～12月)	74.8	59.8	

高知県オリジナルアンケート結果 肯定的割合 (%)

考え方

これまで高等学校段階における本項目に相当する測定指標がなかったため新たに設定。

測定指標

- 生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる。

(新設)

測定指標

- 生徒指導上の諸課題（いじめ、暴力行為）の状況を改善させる。
 - ・いじめの解消率を全国平均以上にする。
 - ・暴力行為の発生件数を全国平均まで引き下げる。

<いじめの解消率>

小・中・高・特支 (国公立)	R2	R3
高知県	68.6	75.9
全国	77.4	80.1

(%)

(参考値) いじめの認知件数*

小・中・高・特支 (国公立)	R2	R3
高知県	55.2	55.1
全国	39.7	47.7

1,000人あたりの認知件数(件)

*いじめの認知件数とは、「いじめはどの子どもにも起こり得る」という認識のもと、教職員等が積極的にいじめを把握し、対応した件数

<暴力行為の発生件数>

小・中・高 (国公立)	R2	R3
高知県	11.0	10.7
全国	5.1	6.0

1,000人あたりの発生件数(件)

児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

「不登校」の考え方については前述。中途退学率については、中途退学をすることが必ずしも「豊かな心を育成することができていない」と表現をする場合にも限られないことや、すでに中途退学率については全国・本県とも改善傾向にあり、県としても全国並の状況となっていることから、中途退学率は測定指標としては設定しない。代わりに、「問題行動」である「いじめ」「暴力行為」の有無については、基本目標として掲げている「豊かな人間性・道徳性・社会性」が育まれているか否かについての成果として表れるものであり、新たに測定指標として設定。

測定指標

- 生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる。

（新設）

測定指標

- 不登校について、
 - ・ 1,000人あたりの新規不登校児童生徒数を全国平均以下とする（小・中・高）。
 - ・ 不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合を向上させる（小・中・高）。

<新規不登校児童生徒数>

（国公立）	R2	R3
県小学校（全国）	6.4（5.6）	7.8（7.2）
県中学校（全国）	23.0（18.4）	26.5（24.5）
県高等学校（全国）	9.7（10.1）	10.4（12.8）

1,000人あたりの新規不登校児童生徒数（人）

（参考値）不登校児童生徒数

（国公立）	R2	R3
県小学校（全国）	11.8（10.0）	14.8（13.0）
県中学校（全国）	50.5（40.9）	61.2（50.0）
県高等学校（全国）	17.4（13.9）	18.0（16.9）

1,000人あたりの不登校児童生徒数（人）

<学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合>

（国公立）	R2	R3
県小中学校（全国）	93.1（65.7）	92.6（63.7）
県高等学校（全国）	71.6（61.5）	65.0（59.4）

（%）

児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

全国と比べても高い新規出現率がある本県において、基本目標に記載の通り、未然防止・早期支援を図る取組を行うことを一つの対応の柱として位置付ける測定指標を設定。

併せて、不登校となった児童生徒がいつでもどこでも多様な学習の機会を確保できる学習支援をはじめとした支援を学校内外で受けることができるような環境整備を目指し、もう一つの対応の柱として位置付ける測定指標を設定。

なお、この不登校に係る測定指標については、高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会の今後の議論を踏まえ、次年度以降、改訂する可能性がある。

第3期教育等の振興に関する施策の大綱の基本理念と基本目標（案）～人と心と未来がつながる「高知家」の教育～

目指す人間像
(基本理念)

- ◆ 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
- ◆ 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
- ◆ 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人

※上記の3つの人間像を実現することで、高知県の子どもの今、そして今後が、身体的、精神的、社会的に良好な状態である、いわゆるウェルビーイングの実現につながる。

P

目指す人間像を実現するための基本目標と、それを測るための測定指標

基本目標1

確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開

社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。

【義務教育段階】：学習の基盤となる資質・能力の確実な育成を図る。

(測定指標)

- 全国学力・学習状況調査において、
小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。
中学校の学力は全国平均に引き上げる。
- <小学校>D層の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。
<中学校>D層の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

【高等学校段階】：社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を身に付ける。

(測定指標)

- 県調査において
学力定着把握検査におけるC層以上の生徒の割合を65%以上とする。
- 高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。
- 高校3年で「自分の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

基本目標2

健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着

生涯にわたって、たくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を身に付けさせる。

(測定指標) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

- 小・中学校の体力合計点は、継続的に全国平均を上回る。平成30年度の全国平均値まで改善させる。
- 総合評価でDE群の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。
- 「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。

(測定指標) 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査において、

- 規則正しい睡眠や食事などの基本的な生活習慣が身についている。
 - ・ 「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。
 - ・ 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。
 - ・ 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、自尊感情、夢や志、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。
また、「不登校」については、決して問題行動ではないことを前提として、「未然防止・早期支援」と「不登校の児童生徒が学びたいと思った時に学べる環境の整備」との両輪による支援を行う。

(測定指標)

- (小中) 児童生徒質問紙調査における道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
「自分には、よいところがあると思う」
「将来の夢や目標を持っている」
「人が困っているときは、進んで助けている」
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

(測定指標)

- (高等) 県調査における道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
「自分という存在を大切に思える」
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」
「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」

(測定指標)

児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

- 生徒指導上の諸課題（いじめ、暴力行為）の状況を改善させる。
・ いじめの解消率を全国平均以上にする。〔参考値：いじめの認知件数〕
・ 暴力行為の発生件数を全国平均まで引き下げる。

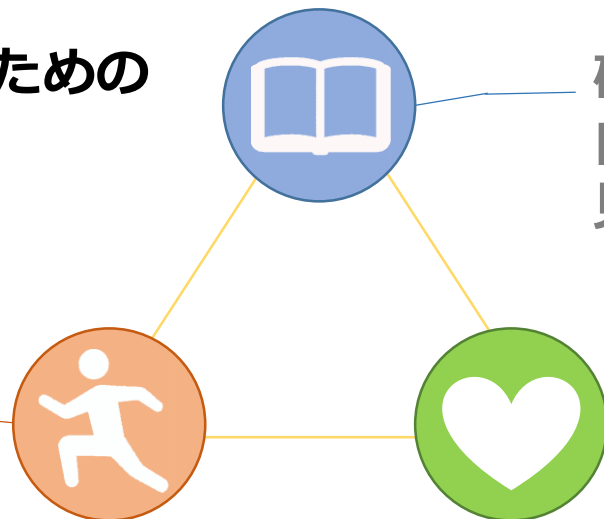
(測定指標)

児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

- 不登校について、
・ 1,000人あたりの新規不登校児童生徒数を全国平均以下とする（小・中・高）。〔参考値：不登校児童生徒数〕
・ 不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合を向上させる（小・中・高）。

目指す人間像を実現するための基本目標

健やかな体
基本的な生活習慣
の定着



確かな学力
自己の将来とのつながりを見通した学びの展開

豊かな心
多様な思い・考えを尊重する機運醸成